

早植えトンネル栽培によるエビイモの増収技術

農業総合研究所

要旨

エビイモを4月下旬に早植えトンネル栽培することにより、地上部の生育が促進されイモの肥大が早くなるため増収する。被覆資材は、トンネル開閉作業が不要な有孔透明農ポリや不織布を用いる。

成果の概要

4月下旬に早植えしてトンネル被覆栽培を行うと、晩霜害や風の影響を防ぐことができ、親株の生育が早く（図）、子株の生育も早くなるため、慣行の5月上・中旬植え無被覆栽培よりも82%増収する（表1）。

トンネル被覆に用いる資材には、毎日の換気作業が不要な省力的資材が有効である。種類としては、有孔透明農ポリ「アーケルフィルム」は価格が安く、日中温度を高くする効果が高いが、暑くなり過ぎないように孔開け作業が必要で、使い切りである。不織布の「スカイテック」と「パオパオ」は価格が高いものの、夜間の保温効果が高く設置後の管理作業が不要で、資材を繰り返し利用できる（表2）。



トンネル

無被覆

図 初期生育の違い（両区とも4月下旬定植）

表1 早植えトンネル栽培が生育と収量に及ぼす影響

試験区	定植日	収穫日	8月2日の草高		収量 (対比)
			親	子	
	月/日	月/日	cm	cm	kg/10a %
早植えトンネル	4/25	10/26	102	92	2751 182
早植え無被覆	4/25	10/26	101	65	1913 127
慣行植無被覆	5/11	11/9	80	40	1511 100

注)トンネル資材はパオパオ90

表2 各トンネル資材の特徴

資材名	種類	材質	トンネル内温度()		価格 円/10a	設置後 管理作業	繰り返し 利用
			最高	最低			
アーケルフィルム	有孔透明フィルム	ポリエチレン	46.0	-0.2	11,056	孔開け	×
スカイテックE01025	不織布(厚手)	ポリエステル	40.8	0.9	58,167	不要	
パオパオ90	不織布(薄手)	ポリプロピレン	40.0	0.6	33,250	不要	

注)アーケルフィルムは、日中温度が上がり過ぎないように、孔開けを複数回に分けて徐々に行う必要がある。

(問合せ先: Tel . 0772-22-6492)